

2 検体品質の向上と業務の標準化を実現する

微生物検査のワークフロー改革

ベックマン・コールター株式会社
マイクロバイオロジー事業部
池延 貴史

医療の質の向上と医療費削減という一見相矛盾する命題を実現するために、微生物検査室が果たす役割は大きい。微生物検査室を取り巻く環境は大きく変化しており、世代交代が進む検査室において、感染管理をはじめ、検査室に求められる役割も拡大しており、品質を保ちながら生産性を向上する、より柔軟なワークフローの構築が喫緊の課題となっている。質量分析器などの新しい技術も出現し、微生物検査室も自らワークフローを変革できる時代になってきている。

ワークフロー改革のキーワードとして、検体の質の向上、標準化、自動化への取り組みが挙げられる。2013年に米国感染症学会（IDSA）と米国微生物学会(ASM)が共同で発表した感染症検査ガイドラインでも、検体品質の重要性について多くのページが割かれており、適切な検体を用いて検査することが検査室の役割であると明記されている。この検体の質の課題に対応するため、新たなコンセプトで開発された液相輸送容器 e スwabを紹介する。

標準化、自動化の観点では、微生物の検体処理システム WASP 及び WASPLab を用いたソリューションを紹介する。

これらの技術の導入による検査室の生産性向上や検査結果の信頼性の向上は、患者様へのより良い医療の提供に寄与すると共に、微生物検査に携わる医療従事者の労働環境の向上とより付加価値の高い業務へのシフトも可能とするものである。